令和８年度新橋小学校

学校経営について

□はじめに

社会が多様化し、学校にはこれまで以上に幅広いニーズや価値観への対応が求められるようになっています。また、インターネットや AI 技術の急速な発展により、子どもたちを取り巻く環境は日々変化しています。このような時代を生きる子どもたちに必要なのは、指示を待つのではなく、自ら学び、自ら行動する力であると考えます。新橋小学校では、そのような「主体的に行動する力」を育てることを大切にしていきたいと考えています。

□学校教育目標「えがお・なかよし・チャレンジ」

○「えがお」は、子どもたち一人ひとりが「安心できる居場所」作り。
○「なかよし」は、仲間と共に自ら進んで学んでいこうとする「協働的に学ぶ力」の育成。
○「チャレンジ」は、自分の力で学んでいく「主体的に学ぶ力」の育成。

□目指す学校像

子どもにとって毎日行きたくなる学校、保護者にとって通わせたくなる学校、地域にとって応援したくなる学校、教職員にとって働きたくなる学校、来校者にとってまた来たくなる学校、そして・・・ずっと居たくなる学校。

□令和８年度　学校経営の３つの重点

① 教職員が子どもとしっかり向き合える環境づくり

～「えがお」安心できる居場所を支える基盤～

子ども一人ひとりの学びと安心を支えるためには、教職員が心身ともに安定して働ける環境づくりが欠かせないと考えます。本校では、児童支援専任２名体制を中心に、学級担任や学年との連携を強め、子どもの困り感や課題への対応を組織的に行っています。また、学校担任を位置づけ、担任不在時にも学びが途切れないよう支援する体制を整えています。会議等については目的や時間を明確にし、業務の見直しを進めることで、教職員が子どもと向き合う時間と心の余裕を担保していきます。本校の教職員の約６割は子育て世代であり、介護に携わる職員もいます。こうした実情を踏まえ、急な休暇があっても学校が安定して運営される体制を整えることが、結果として子どもたちの安心につながると考えています。子どもたちにとって、安心できる居場所があることは、挑戦したり人とかかわったりするための土台となります。令和７年度は、異学年の交流による支え合いや、学級・学年での丁寧な関係づくりを通して、安心して過ごせる環境が広がっていました。また、地域とのかかわりの中で「認められている」と実感する場面も多く見られました。

令和８年度も、こうした関係づくりを大切にしながら、児童支援専任やホッとルーム担当が、一人ひとりの安心を支えていきます。教職員が安心して働ける環境を整えることと、子どもたちが安心して過ごせる居場所をつくることを一体的にとらえ、「えがお」が広がる学校づくりを進めていきたいと考えています。

② ストーリーのある学びの展開

～「チャレンジ・なかよし」を生み出す学び～

授業・行事・体験・地域との出会いを、それぞれ単独の活動としてではなく、「学びたい」という気持ちがつながるストーリーとしてとらえることを大切にしていきたいと考えています。授業で生まれた疑問が校外学習での気づきへと広がり、地域の方や専門家との対話によって考えが深まり、「誰かに伝えたい」「役に立ちたい」という思いへとつながっていく―このようにして主体的な学びを生み出していきたいと考えています。学びの中で子どもたちは、課題に出会い、仲間と共に考え、試行錯誤する経験を通して、主体性や協働性を育んでいきます。「自分からやってみたい（チャレンジ）」「仲間と一緒に取り組みたい（なかよし）」という思いが生まれる授業づくりを大切にしていきたいです。令和７年度は、４年生が福祉車両の学習を通して体験したことをもとに、「つながるフェス」で発信する活動へとつなげてきました。また、地域から「ともに新橋のまちを盛り上げよう！」というお声かけをいただき、「つながるフェス」に出店するなど、学びが社会へと広がる姿が見られました。６年生の「ひかりの池再生プロジェクト」では、池の環境調査を専門家とともに進め、実際の環境改善へとつながる学びを実現しました。

令和 8 年度も、各学年・各学級においてシーズンごとに設定する「核となる活動」を起点に、『学ぶ意味を実感する』『仲間と協働する』『学びを社会へつなげる』ことを大切にしながら、学びがつながり広がっていくことを目指します。こうした学びの積み重ねを通して「チャレンジ」「なかよし」が育つ学校づくりを進めていきたいと考えています。

③ 学びの可視化の質的向上

掲示物や展示、ホームページ等での発信を通して、子どもたちの学びを見える形にしていくことを大切にしていきたいと考えています。特に、どのように考えながら学びを進めていったのかという「学びのプロセス」が見える掲示・展示・発信を大切にしたいです。

令和７年度は、廊下や階段の掲示、「つながるフェス」での展示や発表、ホームページでの発信などを通して、子どもたちの学びを伝える機会が広がりました。話し合いの記録や考えの変化などを示すことで、学びの流れが見える工夫も見られるようになってきています。こうした可視化は、保護者や地域の方にとって理解を深める機会となるだけでなく、子ども自身が自分の学びを振り返ることにもつながると考えています。「どのように考えたか」「どのように変わったか」を見つめ直すことが、次の学びへの意欲につながっていきます。

令和８年度も、学びのプロセスを大切にした掲示・展示・発信を意識し、子どもたち自身の振り返りにつながる可視化を進めていきたいと考えています。

□コミュニティ・スクールの強化

本校では、子どもたちの学びを中心に据えながら、地域とともに育つ学校づくりを大切にしています。令和７年度は、学びの中に地域の方がかかわる場面が広がりました。行政の方と意見を交わしながら学びを進めたり、社会福祉施設や保育園との連携の中で、相手を意識した学びが深まったりする様子が見られました。さらに、「つながるフェス」では、子どもたちが地域の方に学びを伝える中で、「応援したい」「かかわりたい」といった声が生まれ、学校と地域が双方向にかかわる関係へと少しずつ広がってきています。このように、子どもたちの学びをきっかけとして地域とのつながりが深まり、共に支え合う関係が育ちつつあることを実感しています。

今後は、学校運営協議会と地域学校協働本部をより一体的に機能させながら、無理のない形でかかわり続けることができる仕組みを整えていきたいと考えています。地域の事業者や企業・団体、さらには次世代を担う若い世代の参画も視野に入れ、多様なかかわりの中で子どもたちの学びがさらに豊かになることを目指していきたいと考えています。

□おわりに～目指す学校像に向かって～

昨年度は、各学年において主体的・協働的に学ぶ姿が広がってきました。3 年生は阿久和川「まほろば」の学習において行政と協働し、自分たちの意見が実際の取組に反映される経験を積みました。5 年生は保育園や社会福祉施設との連携の中で「安全で安心なお菓子づくり」に取り組み、相手の立場に立って試作をする学びを進めました。6 年生は「フォトユリ」や「マネープロジェクト」の学習を通して、地域や専門家とかかわりながら学びを社会へと広げていきました。これらの実践に共通するのは、子どもたちが自分の思いや願いをもとに課題に向き合い、仲間と協力しながら学びを進めていったという点です。そのプロセスで得られる達成感や充実感が、自信や意欲へとつながり、「えがお・なかよし・チャレンジ」という学校教育目標が、一人ひとりの姿として表れてくるのだと感じています。

このような学びが地域へと発信されることで、「応援したい」「かかわりたい」という声が生まれ、学校と地域とのつながりが深まっていくものと考えています。子どもたちの姿そのものが人と人とをつなぐ力となり、地域にとっても価値ある存在となっていくと考えています。こうした子どもたちの成長は、保護者の皆様にとってもお子さんの姿を実感する機会となり、「安心して通わせたい」という思いにつながっていくと考えます。子どもたちと共に学びをつくるプロセスは、教員にとっても大きなやりがいや喜びとなり、「もっと支えたい」という意欲を生み出します。

子どもたちの主体的･協働的な学びを起点として、子どもにとって「毎日行きたくなる学校」、保護者にとって「通わせたくなる学校」、地域にとって「応援したくなる学校」、教職員にとって「働きたくなる学校」、来校者にとって「また来たくなる学校」という思いを広げていきたいです。子ども・保護者・地域・教職員それぞれがこうした思いを積み重ねていくことが、「この学校を大切にしたい」「かかわりたい」という気持ちへとつながり、“ずっと居たくなる新橋小学校”を形づくっていくのだと考えています。